



東京部会(第67回)	
日時:	2014年5月29日(木) 19:00-20:30
場所:	日本大学経済学部本館2階 中2A会議室
参加者:	12名:野間(同志社大)、中川(日大)、小巻(日大)、大倉(松戸向陽高)、杉田(津田沼高)、升野(筑波大附属中)、塙(府中東高)、榊原(東証)、石山(東証)、加藤(日大)、浅野(山村学園短大)、新井(小石川中等教育) [順不同]
<p>【内容要旨】</p> <p>(1) 石山晴美さん(東京証券取引所)より、夏休み経済教室の進捗状況が報告されました。東証HPにはアップ済みで、各学校には6月上旬に案内チラシが到着とのことで、それから受付が本格化するという報告でした。</p> <p>(2) 野間敏克先生(同志社大学)から札幌部会の報告があり、山崎先生(北見北斗高)の実践報告と討論の内容が報告されました。また、大阪の李先生(長吉中)の実践報告が札幌の先生の関心を引いてぜひ次回は直接話を聞きたいという要望があったことも紹介されました。</p> <p>(3) 加藤一誠先生(日本大学)より、関係団体との連携企画に関してその進捗状況の報告がありました。</p> <p>(4) 塙枝里子先生(都立府中東高)より「幸せを経済で考える」という実践報告がありました。これは、需給曲線を横軸(Q→P)ら読み、余剰の考え方を高校生につたえるという意欲的な試みで、その実践を巡って問題点などが指摘されました。</p> <p>(5) 浅野忠克先生(山村学園短大)から、高等学校公民科教員の実態調査研究の報告を受けました。これは全国1500人の公民科教員の出身や専門、さらに教育面で教えづらいもの、経済に関する自身の見解などを集計、分析した成果です。経済学を大学で学んだ教員は全体の四分之一。教えづらい分野は金融と国際経済が上がっていました。また、教員自身は市場経済に対して肯定的な見解をもっているが、反面、平等主義的で反格差的傾向を持つことなどが紹介されました。データに基づいた分析から今後の教員向けの経済教育の課題が浮かび上がる興味深い報告でした。</p> <p>(6) 日本経済新聞(やさしい経済学)に掲載中の、小巻泰之先生(日本大学)執筆の「予測に挑む」の記事が資料として配付されました。</p> <p style="text-align: right;">文責 新井(小石川中等教育学校)</p>	
<p>次回開催予定:7月1日(火)19:00~21:00。場所は日本大学経済学部(本館2階中2会議室)。議題は、教材に関するディスカッションほか。</p>	